

新潟大学 第8回英語教育改革FD
文部科学省グローバル人材育成推進事業

「実践アカデミック英語 S.P.A.C.E プログラム」について

日時：平成25年9月24日（火）13:00-14:35

場所：新潟大学 総合教育研究棟 B351

参加者： 28名

プログラム：

1. これまでの経緯

人文社会・教育科学系准教授 英語企画部長 平野幸彦

2. Skills Program for Academic and Content English (S.P.A.C.E)

教育・学生支援機構特任教授 カルメン・ハンナ

教育・学生支援機構准教授 ジョージ・オニール

教育・学生支援機構准教授 サイモン・プライヤー

3. 質疑応答

これまでの経緯

人文社会・教育科学系准教授 英語企画部長 平野幸彦

こんにちは、平野です。新学期を前にしてのお忙しい時期にお集まりくださりどうもありがとうございます。普段でしたらこの英語教育改革FDというのは、英語担当専任教員クラス非常勤の英語の先生方だけが対象なのですが、今回はテーマがテーマなものですから、グローバル人材育成推進事業関係の先生方と事務方の方にも足をお運びいただきました。

今お手許に2種類の資料があるかと思います。そのうちA4両面印刷の1枚もの、これは日本学術振興会のウェブページにアップしてある、グローバル人材育成推進事業の制度について述べてある文章を、そのままもってきたものです。目的、公募対象、対象事業につきましては各自お読みください。専任の先生方はもうほとんどご存じだと思いますが、非常勤の先生方もいらっしゃると思いますので概要について少しお話ししておきますと、本事業には2つの申請区分がございます。資料の表面の一番下のところをごらんください。

タイプAの全学推進型というのと、タイプBの特色型、つまり大学の中の一部の部局が申請するものがあります。このたび新潟大学が採択されたのはタイプBです。関連部局は国際センターおよび工学部、法学部、それから医学部ということになっております。

裏面にありますように、実施期間は最大5年間となっております。いつから始まったのかと申しますと、昨年2013年つまり平成24年の10月からという少し半端な時期でしたので、期間が分かりづらいかと思いますが、そして支援開始から3年目に中間評価が入り、支援終了後には、年度でいうと平成29年度に事後評価を実施すると、そういう形になっています。

少し裏話的に経緯をお話ししますと、実はわれわれ英語関係者がこの事業申請について、公に知らされたのは昨年の8月末のことでした。「文科省のヒアリングを受けることになった。ついては、うちの英語教育がどのようになっているかを教えてほしい」と仙石研究担当理事から呼び出しを受けまして、私と機構のハドリー先生が出向いたというのが始めてあります。

そのときに「実践英語」なるものの存在を初めて公式には知らされたということになります。申請がなされているということは水面下で多少は伺ってはいたのですが、その申請書作成の段階では公にはほとんどこちらには照会されることがなかった、問い合わせがなかったのです。ですから、こちらの意見も何もない状態で突然採択されてしまったということです。ちなみにカラーのホチキス留めの資料を1枚めくっていただいたところに、こちらは文科省へのプレゼン資料の一部だと聞いておりますが、本学の採択された事業の概要が図で示されております。今回のFDの話題である「実践アカデミック英語(S.P.A.C.E.)」はこの赤丸で囲んである部分です。ところが実は申請書段階ではここにあるような形ではありませんでした。

ただ単に「実践英語」という見出しで、語学能力によるクラス編成、学部1年生から2

年生にかけてレベル 1 からレベル 2、レベル 3、レベル 4。これしか書いていなかったのです。8月末に理事とお話をしたときも、それ以上のことはほとんど考えられていなかったという印象を受けました。

そして文科省でのヒアリングを経て、幸いなことに本学の計画は採択されました。採択されたのですが、この実践英語の部分については、あまりこのような言い方は適当でないのですけれど、ほぼ白紙状態でわれわれ英語関係者のもとに丸投げされてきました。決まっていたのは、特任教員 2 名を採用してよいということだけです。その特任教員ですが、先ほどもお話がありましたように、幸い、本学での教育経験が長くいらっしゃるハンナ先生に特任教授のポストに就いていただくことができました。あともう 1 人、特任助教の採用人事を行ったのですが、少々トラブルがありまして現在再公募をしており、来年の 4 月 1 日採用予定を目指しています。このように、このグローバルの事業について、純粋にプラスアルファで人が増えたのはその 2 人だけです。そして S.P.A.C.E.の内容の策定はもっぱらハンナ先生にお願いしてやっていただいたのですが、その枠組み自体は「実践英語部門」の代表でいらっしゃる濱口副学長と、私平野と、機構のハドリー先生で練り上げていったという、そういう経緯であります。

イメージとしては少人数、1 クラスの人数をできる限り少なくして、しかもインテンシブに行う。初修外国語のインテンシブの授業がある種モデルになったわけですが、あちらが週 3 回というものを週 5 回にしてやろうという、そういう目論見にしたわけです。

ただ、特任教員の着任時期や、年度の途中から事業が始まったという少し異常な状況があり、準備に手間取ると思われましたので、第 1 セメスターはガイダンスに充てて、本コースを履修する学生に十分な情報を与えたうえで、必要に応じてカウンセリングないしは選抜といった作業を行うことにしました。

そして第 2 セメスターにフェーズ 1。「フェーズ」につきましては後ほどハンナ先生から詳しいお話があります。第 3 セメスターにフェーズ 2、第 4 セメスターにフェーズ 3 ということで、1 年次から 2 年次にかけて完結します。そのような授業をネイティブの専任教員 4 名、内訳としては、特任教授 1 名と、従来からおりました教育学生支援機構所属の外国人准教授 3 名が担当するということになります。

クラス数としましては、3 学部の 10%の学生を一定の数値目標に到達させるということから、医学部 1 クラス、法学部 2 クラス、工学部 3 クラスの計 6 クラスを立てる。6 クラスで週 5 回ですから 30 コマということになります。このように 4 人の専任ネイティブ教員で 30 コマ担当するというのが、当初われわれが作った枠組みでした。

その枠組みができた段階で、すでに特任教授への着任が予定されていたハンナ先生に、こういう形でやりたいから授業の具体的な中身をお考えくださいということで、そちらにいらっしゃるオニール先生やプライヤー先生と話し合いをなさりながら作っていただいたという次第です。

ここまでいけばなんとかやれるかなと思ったのですが、その後、関係部局との折衝や要望がありまして、今年度はフェーズ 1 を第 2 学期からやることは致し方ない。しかし来年度からはぜひフェーズ 1 は第 1 学期、第 1 セメスターにしてほしいということになりました。

た。

お手許の A4 両面印刷資料の裏側の S.P.A.C.E.と書いてある表をごらんください。つまりこういうことです。今年度入学した学生については、第 2 セメスターにフェーズ 1 を行いまして、第 3 セメスター、第 4 セメスターという当初の予定どおりにいきます。しかし、来年度以降の入学生は、第 1 セメスターにフェーズ 1 をやると。第 2 セメスターにフェーズ 2、第 3 セメスターにフェーズ 3。これには 2 年次以降はもっぱら旭町キャンパスで授業を行う医学部の事情もあります。また年次が上がるにつれて、どの学部も専門科目が圧迫してきます。そのような事情から、やむをえないという判断を下しました。

ただ、フェーズ 1 というのは、先ほど申し上げた 4 人の先生が 30 コマを担当するというので、それだけでもうかなり一杯いっぱいなのです。にもかかわらず、来年の第 1 学期には、平成 25 年度入学生のフェーズ 2 と 26 年度入学生のフェーズ 1 が重なるということになります。

これは今のマンパワーでは到底実現不可能です。ですから今日は、事業全体を統括する立場の方がいらっしゃいますけれど、本当は関係部局の方も来ていただけたらよかったです。特任教授 1 名と特任助教 1 名だけでは如何ともしがたいということです。

それでは非常勤講師を……という話になるのかもしれませんが、このコースの性格からして、一般の全学英語のように、空いているコマにたまたまその時間空いていた非常勤の先生をポンと貼り付けるということでは立ちいかない、うまくいかない恐れが十分にあります。

ですから、もう少し、例えば特任教員をもう 1 人ないし 2 人、1 人ですと少し危ない気がします。2 人ぐらい付けていただかないと、この関係部局の要望には答えられないという、そうした危惧が出てきました。

もう少し話がややこしくなりますが、実はその要望を受けたときに、法学部のほうから 2 クラスにすると 1 クラスあたりの学生数が 18 名になってしまう。それだと教育効果が下がってしまうので、3 クラス、自分のところでお金を出してもいいから 3 クラスにしてほしいといったような要望がありました。

そうすると週 35 コマになってしまいます。ですが、これは到底来学期、つまり今年の第 2 学期は不可能なので、法学部さんには申し訳ないですが、18 人のクラスを 2 つでやってくださいということになりましたが、これが来年度以降どうなるかがまだ不透明な状況にあります。こういったところで、まだまだ検討を重ねていかないといけない。つまり完成形を今ここでご紹介するのではなくて、作っては手直しを重ねながらまたやっていくことになる。今日お話しするのは、そういったプログラムについての中間報告というか現時点での計画といったようにご理解いただくと幸いです。

私からは以上です。何か今ご質問ありますでしょうか？ 最後に質疑応答の時間を取りますので、概要のお話を聞きながら、何かお気づきになられましたら、そのときにご質問していただければと思います。では簡単ですが、私からは以上と致します。どうもありがとうございました。

グローバル人材育成推進事業

目的

グローバル人材育成推進事業は、若い世代の「内向き志向」を克服し、国際的な産業競争力の向上や国と国の絆の強化の基盤として、グローバルな舞台に積極的に挑戦し活躍できる「人財」の育成を図るため、大学教育のグローバル化を推進する取組を行う事業に対して、重点的に財政支援することを目的としています。

公募対象

我が国の国公立大学（学校教育法第2条第2項に規定する国立学校、公立学校及び私立学校（学校法人が設置する大学に限る。））

なお、申請の要件等詳細については公募要領をご覧ください。

対象事業

本事業は、「グローバル人材育成推進会議 中間まとめ」によるグローバル人材としての三要素

I：語学力・コミュニケーション能力

II：主体性・積極性、チャレンジ精神、協調性・柔軟性、責任感・使命感

III：異文化に対する理解と日本人としてのアイデンティティー

に加え、これからの社会の中核を支える人材に共通して求められる、幅広い教養と深い専門性、課題発見・解決能力、チームワークとリーダーシップ、公共性・倫理観、メディア・リテラシー等の能力の育成を目指し、大学教育のグローバル化を推進する取組を対象とします。

申請区分・選定件数

・タイプA：全学推進型 10件程度

・タイプB：特色型 30件程度

実施期間

最大5年間(国の財政事情等により5年間で必ず保証するものではありません)。

なお、毎年度のフォローアップ(後述の「中間評価」実施年度は除く)、支援開始から3年目に平成25年度までの取組状況に関する中間評価、支援終了後(支援開始から6年目の平成29年度)に支援期間全体の実績に関する事後評価を実施し、毎年度のフォローアップ及び中間評価の結果は、補助金の配分に勘案されるとともに、事業目的、目標の達成が困難又は不可能と判断された場合、事業の中止も含めた計画の見直しを行うことがあります。

(以上、<http://www.jsps.go.jp/j-gjinzai/gaiyou.html> より)

S. P. A. C. E.

平成25(2013)年度入学生

第1セメスター	第2セメスター	第3セメスター	第4セメスター
	Phase 1	Phase 2	Phase 3

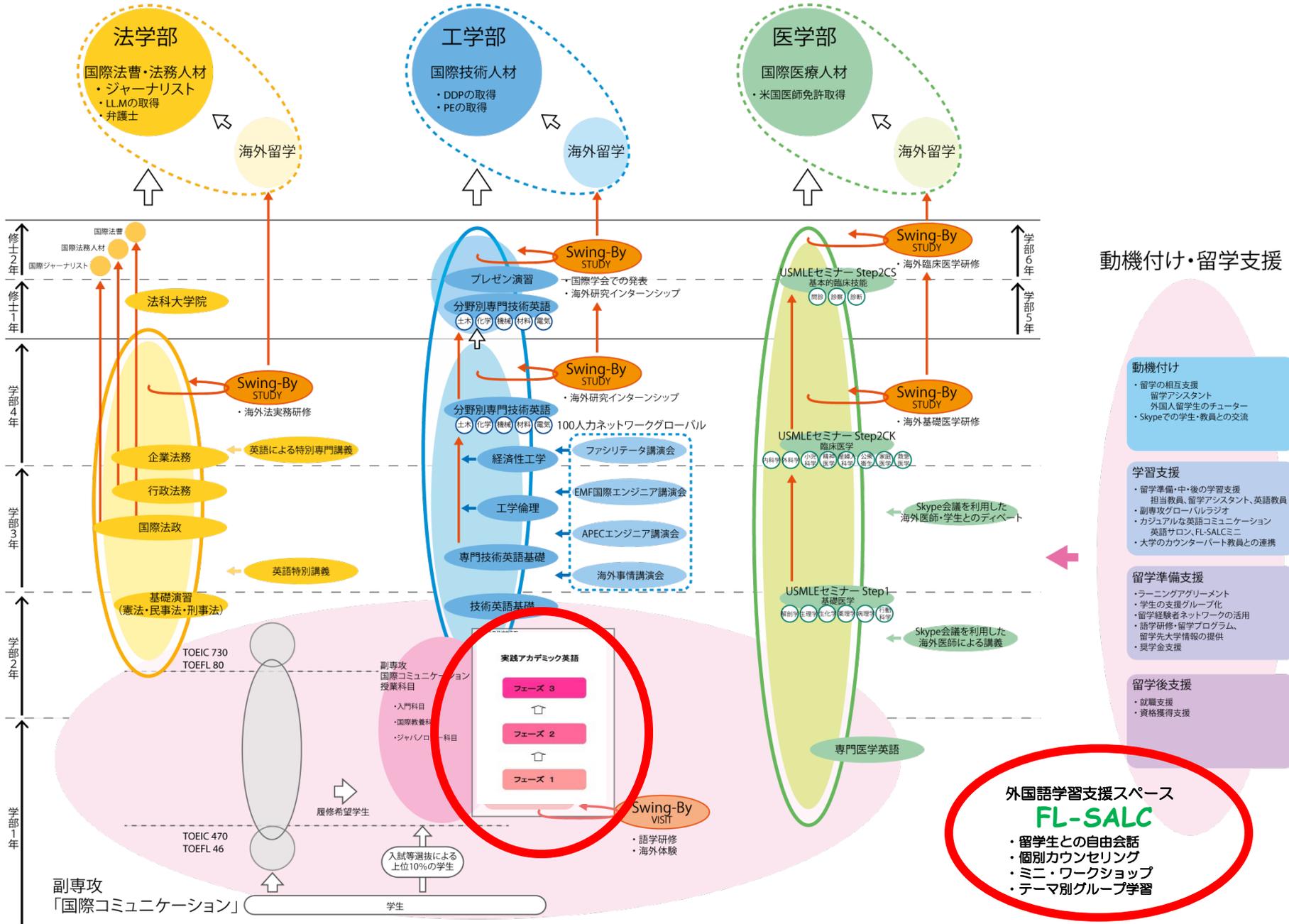
平成26(2014)年度入学生以降

第1セメスター	第2セメスター	第3セメスター	第4セメスター
Phase 1	Phase 2	Phase 3	

人文社会・教育科学系

自然科学系

医歯学系



外国語学習支援スペース

FL-SALC

- ・留学生との自由会話
- ・個別カウンセリング
- ・ミニ・ワークショップ
- ・テーマ別グループ学習

外国語学習支援スペース エフエル-サルク FL-SALC

総合教育研究棟でお試し版として活動していた「FL-SALCミニ」がパワーアップして中央図書館B棟2階にオープン！今回はその機能をご紹介します！

1 外国語学習教材が2,450点！

英語だけでなく、様々な外国語の学習に役立つ教材を豊富に取り揃えています。各国語版「スピードラーニング」のCDやNHKの語学番組のDVDといった視聴覚資料はもちろん、中には日本のマンガや絵本の各国語翻訳版なんかも！



3 発音練習にはスピーキング・ブース！

今日はNet Academy 2のシャドーイングをやってみようかなー。



教育用PCにヘッドセットやWebカメラを完備したブースには、日本人が間違いやすい英語の発音を目で見て矯正できる「Ami Voice Call Lite」を導入。他にも、視聴覚資料やeラーニング教材などを使って、外国語を声に出して練習することができるスペースです。

4 留学生と外国語deチャット！

新潟大学の留学生と会話を楽しみながら、英語やドイツ語、フランス語に少しずつ慣れていくことができます。予約不要、途中・飛び入り参加OK！



FL-SALCアシスタント 江部 早苗

2 プロのアドバイザーによる英語学習カウンセリング！



英語学習アドバイザー 奥村 圭子

TOEICやTOEFLのような資格試験対策をはじめ、英語学習全般についての質問や相談などに、親身になって対応します。まずは気軽に予約をして、話をしに来てくださいね！

大学に入ったら英語の学習時間が減ってしまっ...

英語を効率よく勉強したいけれど、具体的に何をすればいいんだろう？と悩んでいて。カウンセリングを受けて、自分に合った教材や勉強の仕方も見えてきたし、モチベーションのアップにも繋がりました！また来ようと思います！



高校と違って毎日のように英語の授業があるわけじゃないですからねー...

Now Counseling...

ドイツ語やフランス語は大学で初めて勉強する人が多いから気兼ねなく参加できるし、皆と一緒に上達してるって感じがいいですね！



色々な国の友達と皆で楽しくしゃべりしてます。授業とはまた違った感じで英語に触れることができるので、留学したいと思ってる人はもちろん、留学したことがある人にもオススメです！



Project for the Promotion of Global Competency – English Language Curriculum

S.P.A.C.E Program

新潟大学グローバル人材育成推進事業

Carmen Hannah channah@ed.niigata-u.ac.jp

S.P.A.C.E Program

Skills **P**rogram for
Academic and
Content **E**nglish

S.P.A.C.E Program

Phase 1

FOUNDATION

Phase 2

APPLICATION

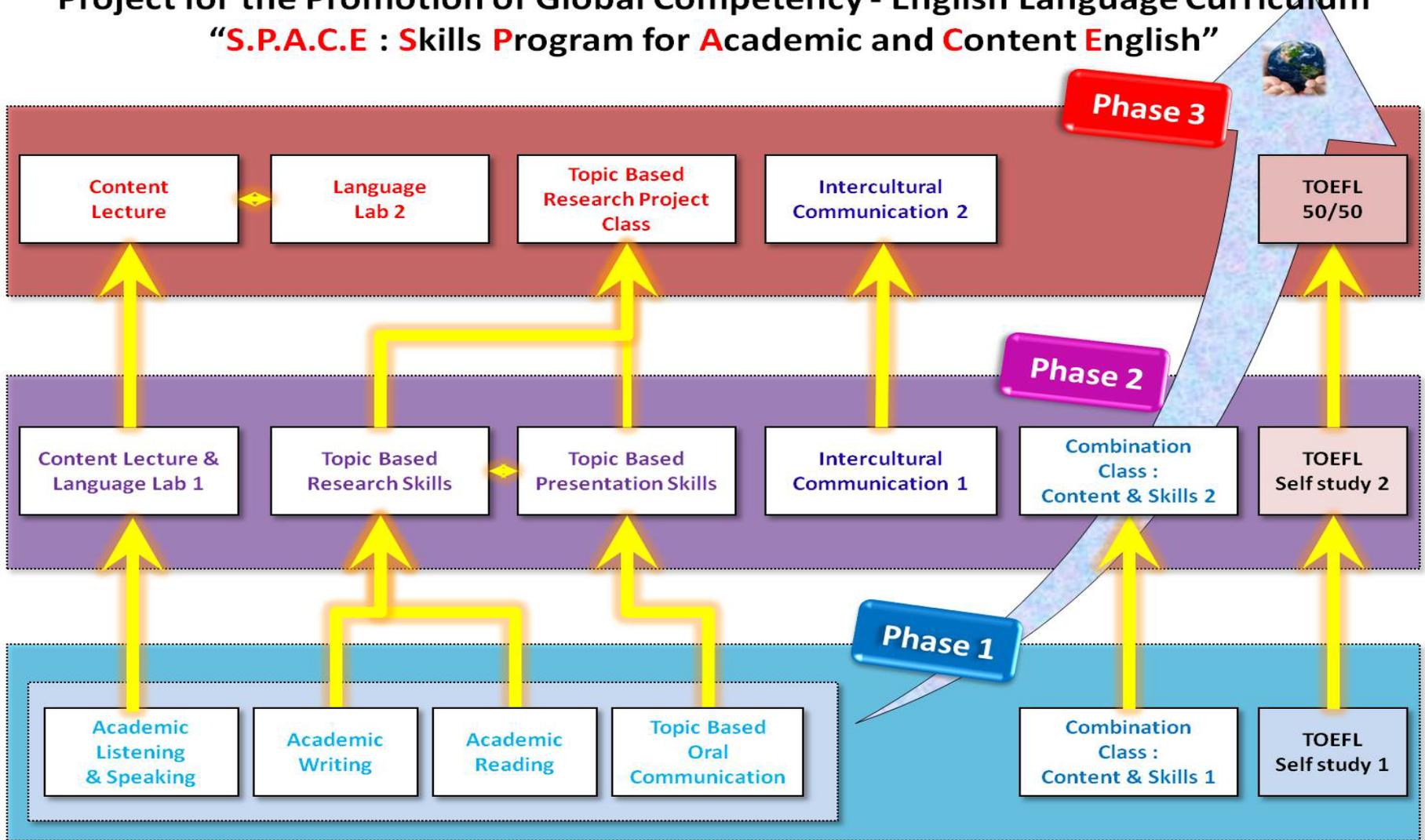
Phase 3

EXTENSION



S.P.A.C.E Program

Project for the Promotion of Global Competency - English Language Curriculum
“S.P.A.C.E : Skills Program for Academic and Content English”



S.P.A.C.E Program

Phase 1

Foundation

Academic
Listening
& Speaking

Academic
Writing

Academic
Reading

Topic Based
Oral
Communication

Combination
Class :
Content &
Skills 1

TOEFL
Self
study 1



S.P.A.C.E Program

Phase 2

Application

Content
Lecture &
Language
Lab 1

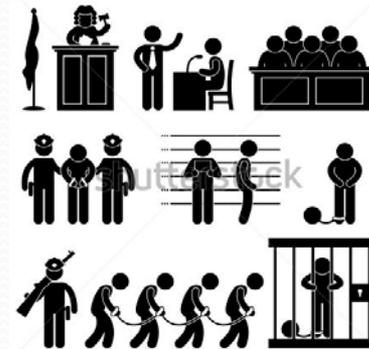
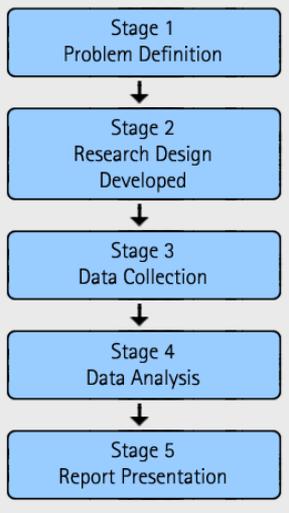
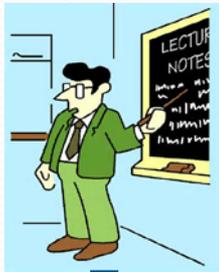
Topic Based
Research
Skills

Topic Based
Presentation
Skills

Intercultural
Communication
1

Combination
Class :
Content &
Skills 2

TOEFL
Self
study 2



S.P.A.C.E Program

Phase 3

Extension

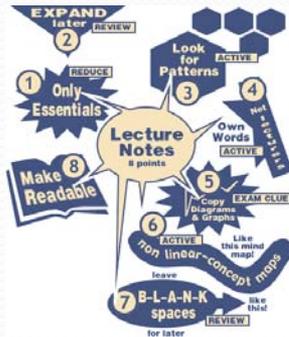
Content
Lecture

Language
Lab 2

Topic Based
Research Project
Class

Intercultural
Communication
2

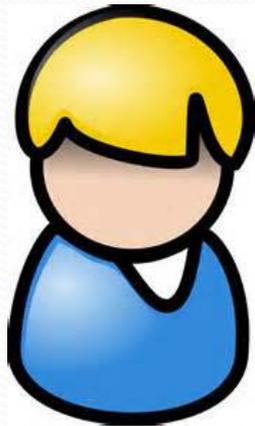
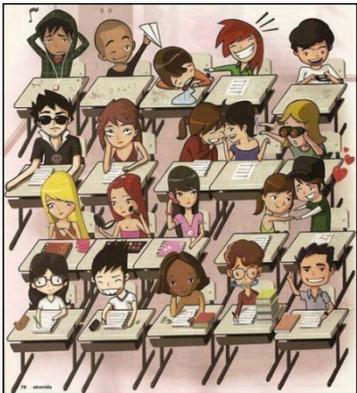
TOEFL
50/50



S.P.A.C.E Program

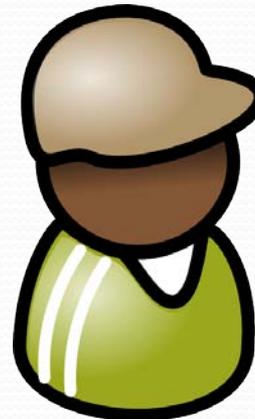
Phase 1

Teaching Team

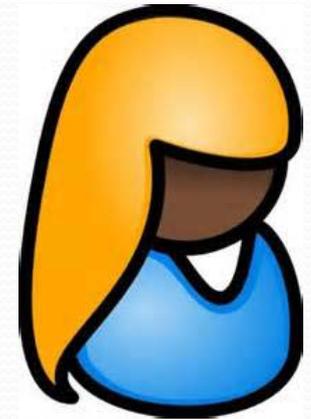


Academic Writing	Academic Reading
------------------	------------------

TOEFL Advisor



Academic Listening & Speaking	Topic Based Oral Communication
-------------------------------	--------------------------------



Combination Class : Content & Skills 1

S.P.A.C.E Program

	Academic Listening & Speaking	Academic Writing	Academic Reading	Topic Based Oral Communication	Combination Class
Medical (Class 1)	月曜日5限	火曜日5限	水曜日5限	木曜日5限	金曜日5限
Engineering (Class 1)	月曜日5限	火曜日5限	水曜日5限	木曜日2限	金曜日5限
Engineering (Class 2)	月曜日5限	火曜日5限	水曜日5限	木曜日5限	金曜日5限
Engineering (Class 3)	月曜日5限	火曜日5限	水曜日5限	木曜日5限	金曜日5限
Law (Class 1)	月曜日4限	火曜日4限	水曜日4限	木曜日4限	金曜日4限
Law (Class 2)	月曜日4限	火曜日4限	水曜日4限	木曜日4限	金曜日4限

*Day / Time Color Key

Purple = Teacher A

Black = Teacher B

Red = Teacher C

Green = Teacher D

Project for the Promotion of Global Competency – English Language Curriculum

S.P.A.C.E Program

新潟大学グローバル人材育成推進事業

Carmen Hannah channah@ed.niigata-u.ac.jp